

市長（山田憲昭君）

本市の非常食の備蓄状況についてお答えをいたします。

本市では、森本・富樫断層を震源とする地震で想定される避難者数約 2,200 人、3 日分を基準に備蓄を進めております。

備蓄量につきましては、現時点でアルファ米約 1 万 5,000 食、乾パン約 4,500 食、豚汁約 5,500 食、飲料水約 1 万 3,200 リットルを備蓄し、備蓄量についてはおおむね 100%となっております。

備蓄品につきましては、市内の倉庫、支所、市民サービスセンター、学校等 13 カ所に保管をいたしております。

なお、それぞれの避難施設での備蓄が必要となりますので、順次、物資の配備を進めておるところであります。

次に、アレルギー対応食品の導入についてお答えをいたします。

本市では、以前より災害時の食糧としてアルファ米、乾パンなどを備蓄しておりますが、これらはアレルギーに対応したものではありません。このため、昨年度からアレルギーフリーの御飯、卵不使用のソフトパンをそれぞれ購入し、アレルギーの対応食品の導入を始めたところであります。

近年、技術の進歩によりアレルギー対応でありながら口当たりがよい、調理に加熱や水を必要としない、食後のごみが少ないなどさまざまな利点を備えた備蓄食品が出ております。

こうしたことを踏まえまして、今後の配備計画を策定するに当たっては、一定量のアレルギー対応食品の導入、確保を図ってまいりたいというふうに考えております。

以上であります。